

新型インフルエンザ

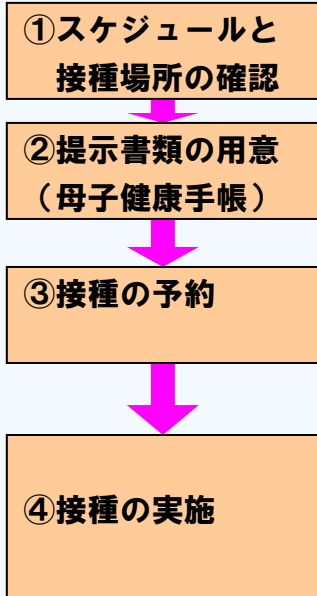
ワクチン接種を受けられる妊婦さんへ 11月中旬から接種が開始されます。

新型インフルエンザは感染力は強いのですが、多くの感染者は軽症のまま回復しており、治療薬（タミフル・リレンザ）が有効です。ただし、基礎疾患を有する人や妊婦さんは重症化する可能性があり、注意が必要です。このため、妊婦さんは今回のワクチンの優先的な接種対象者となっています。

今回の新型インフルエンザワクチンには、これまでのデータから、重症化の防止に一定の効果が期待されていますが、**接種したからといって、かからないわけではありません。**また、ワクチン接種は**重症化予防というメリットをもたらす一方で、まれに重篤な症状を引き起こす可能性もあります。**

この点をご理解いただいたうえで、個人の選択により接種を受けていただくようお願いします。

接種までの流れ



かかりつけの医療機関や相談窓口にお問い合わせ、具体的スケジュールと接種のできる医療機関などの場所を確認してください。

実際に接種を受けるときには、窓口にて「母子健康手帳」を提示し、**ご自分が優先的な接種対象者であることをお示しください。**

接種を実施する医療機関などに予約を入れてください（ただし、医療機関によっては予約不要です。詳しくは各医療機関にお問い合わせください）。

接種では保存剤が添加されていないワクチン^(注)を用いることができます。希望する方はその旨をお伝え下さい。

ワクチンの接種後には、接種部位に腫れが出たりといった反応が出るかもしれません。ほとんどは軽い一過性の症状でおさまりますが、気になる症状が出たり長引いたりするときは医師に連絡してください。

(注)：11月前半以降に出荷される予定。



接種費用について

実費を徴収させていただきます。

1回目：3,600円

2回目：2,550円 (1回目と異なる医療機関で接種する場合は3,600円)

※なお、生活保護を受けている世帯等、所得の少ない世帯に対して費用負担の軽減を行います。詳しくは市町村窓口にお問い合わせください。



妊婦のワクチン接種に関する Q&A

Q 妊婦に対してもワクチンを接種することは可能？胎児への影響は？

A 日本で使用されるインフルエンザワクチンは、生ワクチンではないので妊婦に対して特別に重い副作用は起こらないと考えられ、一般的に妊娠中の全ての時期に接種可能とされています。妊娠初期に従来のインフルエンザワクチンを接種しても奇形のリスクがないという研究結果もあります。

(国立成育医療センター)

Q 授乳中にインフルエンザワクチンを接種しても問題は？

A インフルエンザワクチンは病原性をなくしたウイルスの成分を用いているため（不活化ワクチン）、ウイルスが体内で増えることがなく、母乳を介してお子さんに影響を与えることはありません。

(国立感染症研究所)

★相談窓口（平日9：00～17：00）

- 村山保健所 TEL 023-627-1117
- 最上保健所 TEL 0233-29-1268
- 置賜保健所 TEL 0238-22-3002
- 庄内保健所 TEL 0235-66-4920
- 県保健薬務課 TEL 023-630-2315